

# プロネクサスベトナム現地レポート

(2021年7月 VOL.24)

プロネクサスベトナムが、2021年6月のベトナム現地情報をお伝えいたします。  
 今回のテーマは、ベトナムへの海外からの直接投資（Foreign Direct Investment 以下、FDI）の動向についてです。

2021年ワクチンが普及してきたものの全世界で新型コロナウイルスの影響は未だに大きく、前年同時期と比べると減少傾向が続いております。

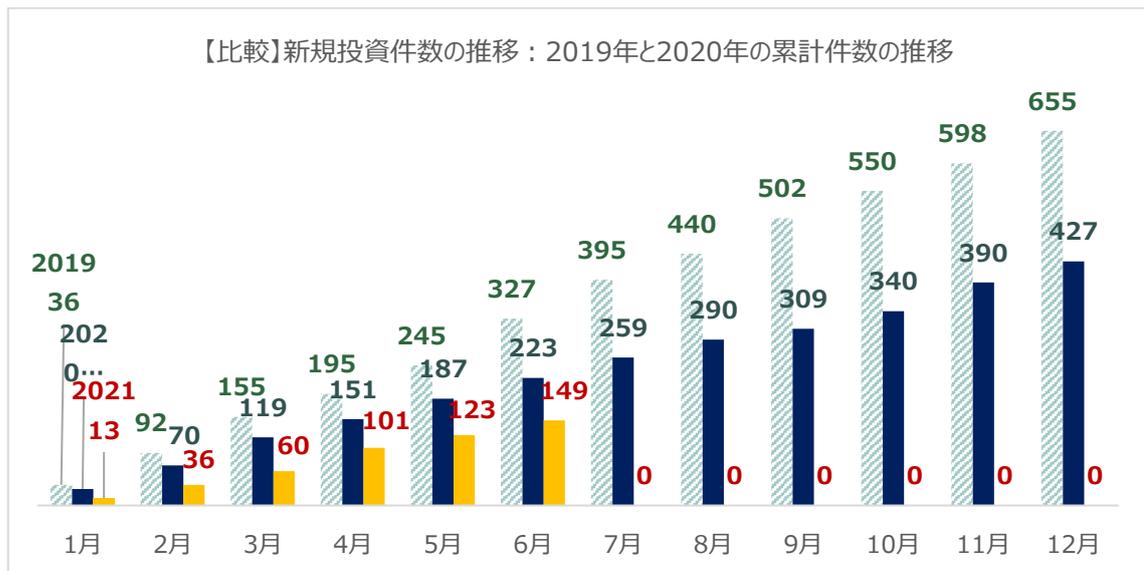
【FDI 動向の概要（2021年1月1日～6月20日）】\*6月の数値は20日時点の値

## 【1】日本の対越投資動向

- 日本の2021年1月1日から6月20日までのFDI投資額は約24億4,246万USドル（\*2020年同期間：約14億6,410万USドル、166.8%）
- 日本の2021年1月1日から6月20日までのFDI投資件数は、260件（\*2020年同期間：586件、44.4%）
- 証券投資件数を除いた日本の2021年1月1日から6月20日までのFDI投資件数は、149件（\*2020年同期間：223件、66.8%）

\*下グラフ参照

\*証券投資を除くFDI投資件数の統計データは、会社設立や増資等の日系企業の直接的な進出動向の判断指標の一つとなる数値です。



\*データ引用元：ベトナム外国投資庁

## 【2】世界の対越投資動向

2021年6月の値ですが、海外からのベトナムへの直接投資は、80の国と地域から投資が行われており、投資金額・投資件数の上位5か国は以下のとおりです。

### ■投資金額の上位5か国（金額：USドル）

1位	シンガポール	約56億
2位	日本	約24億
3位	韓国	約20億
4位	中国	約12億
5位	香港	約10億

### ■当件数の上位5か国（件数）

1位	韓国	926
2位	中国	386
3位	シンガポール	309
4位	日本	260
5位	台湾	182

\*データ引用元：ベトナム外国投資庁

\*「新規投資の金額・件数」「追加投資の金額・件数」「証券投資の金額と件数」の合計で順位を算出（2021年1月1日～6月20日）

### <主な大型プロジェクト>

- ▶ 火力発電所建設プロジェクトで約13億USドル（日本）2021/1
- ▶ LG電子ハイフォン工場に約7億USドル追加投資（韓国）2021/2
- ▶ 発電所建設プロジェクトで約31億USドル（シンガポール）2021/3
- ▶ 太陽電池プロジェクトで約5億USドル（香港）2021/3
- ▶ Far Eastern Polytex工場に約6億USドル追加投資（台湾）2021/5
- ▶ 上記の大型プロジェクトなどがFDI投資金額全体を下支えしており、全世界からのベトナムへの投資金額は、対前年同時期と比較し60.6%程度で推移

\*引用元：ベトナム外国投資庁

### <6月の投資状況>

2021年6月の外国からベトナムへのFDI投資をみると、金額ベースは同水準に少しずつ戻りつつありますが、件数は未だに伸び悩んでいる状況にあります（対前年比 約60.6%程度）。

外国からベトナムへの新規プロジェクトへの投資は804件（対前年比56.7%程度）、金額は95億USドル（対前年比113.2%）。同様に外国からベトナムへの既存プロジェクトに係る増資に関しては、460件行われ（対前年比87.5%程度）、金額は41億USドル（対前年比110.6%）に達しました。しかしながら、2021年6月のベトナムにおいて投資資本においては6.8%増加し、厳しい状況下でも注目を浴び、経済成長が続いていることが分かります。

### <発展していくベトナムの EC 市場と SNS>

近年ベトナムでの EC 市場や SNS 普及率が目覚ましい拡大を遂げています。

ベトナムのモバイルアプリの会社 Appota によるとベトナムで携帯電話を使用している人は人口の約 70%を占め、インターネット利用率（スマホで）は 95%まで伸びています。ベトナム人は特に SNS 利用率が高いと言われており、2020 年 12 月時点で人口 9730 万人のうち 73%が毎日 SNS にアクセスしているとのこと。一番人気のメッセージングアプリは Zalo、次いで人気なのが Facebook Messenger となっています。その他 Youtube や Tiktok など日本と同様若い世代で非常に人気が出ています。

また近年ではコロナウイルスの影響もあり、EC 市場は若者だけでなく中高年の方にも多く利用されています。ベトナムの e コマース協会（VECOM）の発表によると、2017 年から 2018 年に掛けて EC 市場規模は 30%の成長となり、今後も同成長率となれば 2020 年の市場規模は 130 億 USD まで達します。日本では通販サイトといえば Amazon や楽天での購入がほとんどですが、ベトナムでは有名な通販サイト以外にも SNS での商品購入が非常に多いです。また、広告も日本とは少し違い、製品名を大々的に繰り返し出すことで顧客の頭に残るようなものが通常です。日本の製品名をあまり出さない広告とは違うため、ベトナムやその他海外でマーケティング・広告を出す際は当然ながら文化の違いに注意が必要です。

ベトナムの EC 市場拡大は、外資系企業にとって大きなメリットです。伝統的なパピママショップが主流であり外資系が参入し辛い環境であったベトナムですが、EC 市場がより発展していくことで、外資系企業は店舗の確保や人材の確保にコストが掛からなくなり、初期コストを抑えて海外進出が出来ます。

以上を踏まえて、今後のベトナムの EC 市場拡大には更なる注目が集まるでしょう。

\*引用元:

Appota. "Vietnam Mobile Application Report" <https://appota.com/report>, (参照 2021/06/29)

Vietnam E-commerce Association(VECOM). "The speed of e-commerce development". <http://en.vecom.vn/news/the-speed-of-e-commerce-development>, (参照 2021/06/29)

以上、プロネクサスベトナムが海外からの投資動向について、お知らせ致しました。

次回は、【ベトナムへの海外からの直接投資（Foreign Direct Investment 以下、FDI）7 月の動向について】をお伝え致します。

### 【Disclaimer】

- 本資料は、情報提供を目的として作成しております。
- 本資料に記載の情報は、会計・税務・法律上の観点からのアドバイスを含むものではありません。
- インターネット上を含む、一切の無断転載を禁止しております。
- 本資料の情報は、株式会社プロネクサスが作成元より提供を受けており、著作権は、原則として作成元に帰属します。いかなる目的でも、本資料の一部または全部を無断で使用すること、または、いかなる方法で複写、複製、引用、転載、翻訳、貸与などを行うことを禁止しております。
- 本資料に記載された情報は、作成元が信頼できると判断したものを根拠として作成を行っておりますが、その内容の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。弊社および作成元は、当該情報に起因して発生した損害について、その内容の如何に関わらず、一切の責任を負いません。